

# 環境経営レポート

(対象期間：令和5年7月1日～令和6年6月30日)



令和5年度 釣橋川（護岸工）

株式会社 井口組

## 目 次

[ 1 ]	組織の概要	P. 1
[ 2 ]	対象範囲、対象期間、推進組織、役割分担	P. 2
[ 3 ]	環境経営方針	P. 3
[ 4 ]	環境経営目標	P. 4
[ 5 ]	環境経営計画	P. 5 - 6
[ 6 ]	環境経営目標の達成状況(実績)	P. 7 - 8
[ 7 ]	環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	P. 9 - 10
[ 8 ]	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、違反、訴訟等の有無	P. 11
[ 9 ]	代表者による全体評価と見直しの結果	P. 12

## [1]組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社 井口組  
代表取締役 池田 義明

(2) 所在地

静岡県浜松市浜名区三ヶ日町都筑733-3

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者 環境管理責任者 野澤  
担当者 環境管理事務局 山田  
連絡先 TEL 053-526-7002 FAX 053-526-1258  
メールアドレス [info@iguchi-gumi.jp](mailto:info@iguchi-gumi.jp)

(4) 事業活動

土木, 建築, 大工, とび・土工, 屋根, 鋼構造物, ほ装, しゅんせつ, 塗装,  
内装仕上, 水道施設, タイル・れんが・ブロック, 解体工事業

(5) 建設業許可

静岡県知事許可(特-3)第1279号  
土木, 建築, 大工, とび・土工, 屋根, 鋼構造物, ほ装, しゅんせつ, 塗装,  
内装仕上, 水道施設, タイル・れんが・ブロック 各工事業  
静岡県知事許可(般-3)第1279号  
解体工事業  
許可年月日: 2022年3月5日 有効期限: 2027年3月4日

産業廃棄物 自社運搬のみ

(6) 事業の規模

創業 1924年(大正13年) 会社設立 昭和45年12月

活動規模	単位	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	百万円	237	208	315
従業員	人	8	7	8
事務所床面積	m <sup>2</sup>	387.2	←	←
倉庫床面積	m <sup>2</sup>	382.03	←	←
資機材置場	m <sup>2</sup>	4,950	←	←

## [2]対象範囲、対象期間、推進組織、役割分担

### (1) 対象範囲

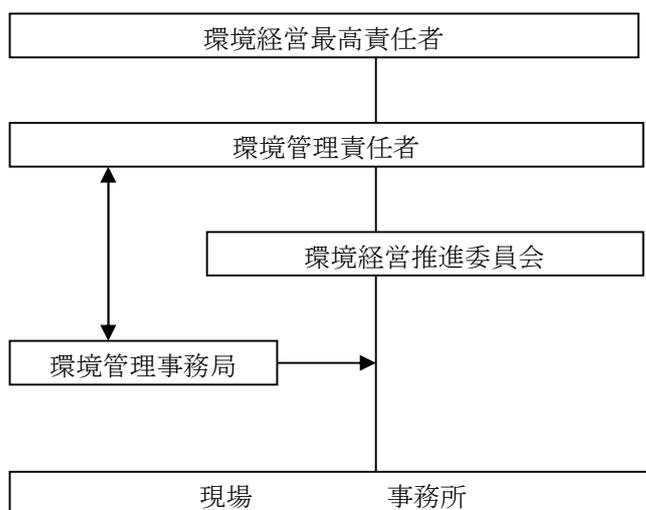
①適用する事業所                      ・ 本社事務所、各現場

②適用構成員                              ・ 当社役員、従業員

### (2) レポート対象期間

令和 5 年 7 月 1 日 から 令和 6 年 6 月 3 0 日

### (3) 推進組織



### (4) 役割分担

最高責任者 (社長)	環境マネジメントを計画的に実施するための内容を確認、決定する。 ① 管理責任者をはじめ必要な責任者を任命する。 ② システムの構築・運用・維持に必要な経営諸資源を準備する。 ③ 基本理念・基本方針を制定し基本的な環境目標を設定する。 ④ システムの構築・運用に関する情報を収集し、評価し、システム全体の見直しを行い、必要あれば改定を指示する。
環境管理責任者	環境マネジメントシステムの推進・維持をする。 ① 経営資源の合理的・効果的な運用を図り、環境経営に関する委員会組織（推進委員会）を運営する。 ② 最高責任者による見直しのための情報として、システムの構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
推進委員会	環境管理責任者を委員長として（随時）実施する。 ・各部署の長で構成し環境マネジメントシステム及び環境改善に関する会議を実施する。
事務局	・環境管理責任者を全面的に補佐する。
全従業員	・決められたことを守りE A 2 1活動を推進する。

# 環境経営方針

## 基本理念

株式会社井口組は、建築・建設の事業活動を通じて、地域に貢献し、環境問題に積極的に取り組み、エコアクション21を通じて、循環型社会の実現に貢献します。

## 行動指針

当社は、すべての事業活動が環境に何らかの影響を与えていることを認識した上で、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、安全を図り、省エネルギー・省資源・リサイクルなどに配慮した活動・サービスを提供します。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムと環境保全実績が継続的に改善できるように推進します。
3. 環境関連法令と当社が参加した協定等を遵守することはもとより、可能であれば、自主管理基準を設けて環境管理レベルの向上を図ります。
4. 次の事項を重点的なテーマとして、環境経営目標を設定し、必要があれば目標を見直すなどの効果的な取り組みを行います。
  - (1) 「環境への負荷チェック」の結果、著しい項目に対する改善目標管理。特にCO<sub>2</sub>排出抑制、廃棄物排出抑制、総排水量抑制、化学物質使用量抑制については、改善目標を設けて目標管理を行うか、または維持管理を行います。
  - (2) グリーン購入の推進を図ります。
  - (3) 公共工事の評定点の向上を図ります。
5. 環境保全関連の行政機関・団体などの環境保全施策に協力し、社会貢献活動を推進します。
6. 環境教育・訓練、社内広報活動の実施により、全ての構成員に環境方針を周知徹底すると共に、環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。
7. この環境方針は、社外の人にも公開します。

平成23年10月 1日制定

令和 2年 6月 1日改定

株式会社 井口組

代表取締役 池田 義明

#### [4]環境経営目標

当社については、以下の目標を掲げて環境経営活動に取り組んでいる。

##### 単年度目標(R5/7~R6/6月)

No.	テーマ	目標	目標値
1	二酸化炭素 排出量削減	令和4年度比1%削減 (kg-CO2) 完工高百万円当りに対する評価も参考にする	53,737
2	廃棄物リサイ クル率の向上	リサイクル率98%以上	98%以上
3	水使用量 削減	過去3年間の一人あたりの使用量 ×人数以内を目指す。(12m3/人)	84m3 以内
4	化学物質 使用量削減	削減目標は設定せず維持管理とする	削減に努める
5	建設資材の グリーン購入 の推進	可能な限り建設資材のグリーン購入を推 進する。	購入に努める
6	公共工事の 評定点向上	市の平均との差、毎年±1点以内を 目指す。	±1点以内
7	社会貢献 活動の推進	社会貢献活動を年間1件以上実施。	1件以上実施

##### 中長期目標(R5-R7年度) R4 排出係数にて0.433

No.	テーマ	目標	基準年 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
1	二酸化炭素 排出量削減	3年間で3%削減 (kg-CO2) 完工高百万円当りに対する評価も参考にする	54,280	-1% 53,737	-2% 53,194	-3% 52,651
2	廃棄物リサイ クル率の向上	リサイクル率98%以上	100%	98%以上	98%以上	98%以上
3	水使用量 削減	過去3年間の一人あたりの使用量 ×人数以内を目指す。(12m3/人)	84m3 以内	84m3 以内 変更あり	84m3 以内 変更あり	84m3 以内 変更あり
4	化学物質 使用量削減	削減に努める。	削減に 努める	削減に 努める	削減に 努める	削減に 努める
5	建設資材の グリーン購入 の推進	可能な限り建設資材のグリーン購入 を推進する。	購入に 努める	購入に 努める	購入に 努める	購入に 努める
6	公共工事の 評定点向上	市の平均との差、毎年±1点以内 を目指す。	±1点 以内	±1点 以内	±1点 以内	±1点 以内
7	社会貢献 活動の推進	地域での社会貢献活動を一年に1件 以上行う。	実施	実施	実施	実施

**[5]環境経営計画**

	推進項目 (推進責任者)	推進内容 R5 年度 R6 年度	実施予定 (月)											
			7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
1	二酸化炭素排出量削減 (事務局)	<b>電力使用編</b> <b>【現場】</b> ・ 不使用機械の電源オフ ・ 昼休み、休憩時間、退社時の作業場内消灯 ・ 作業場内の不使用場所の消灯、不要箇所の減灯 <b>【事務所】</b> ・ 長時間未使用のパソコン・コピー機等の電源オフ ・ 退社時のパソコン・コピー機等の電源オフ確認 ・ 節電モードの利用 ・ 会議室、応接室等の不使用時の消灯 ・ 長期間使わない物は、コンセントを抜く ・ 適正な冷暖房温度(室内温度)の見直し <b>【全部署】</b> ・ トイレ不使用時、通路照明不要時の消灯 ・ その他、不使用場所の消灯、不要箇所の減灯 ・ 節電対応型機種への変更並びに導入の検討 <b>燃料使用編</b> ・ 無用なアイドリング・空ぶかしをしない ・ 制限速度で走行する ・ 急発進・急加速・急ブレーキを避ける ・ 高速道路、バイパス道路の使用励行 ・ タイヤ空気圧の整備・点検 ・ 不要な荷物は載せない ・ 最短ルートを事前に確認 ・ ナビゲーションの導入検討 ・ 新車購入予定の場合、環境配慮型の検討	<b>【現場】</b> 「電力使用量削減パトロール」 チェックリスト  <b>【事務所】</b> 「電力使用量削減パトロール」 チェックリスト  夏場 26 度以上 → 冬場 22 度以下 →  <b>【全部署】</b> 周知徹底、活動継続、現場車輛の燃費調査 車両「車輛日報、作業日報」にて管理											
2	廃棄物リサイクル率の向上 (事務局)	<b>【全部署】</b> ・ 定められた方法に従って可能な限り分別 ・ 種類毎の廃棄物置場に収集、分別 ・ 各廃棄箱に表示 <b>【現場】</b> ・ 混合物分別によるリサイクル率を 98%以上推進	<b>【全部署】</b> 周知徹底、活動継続 「廃棄物分別パトロール」  <b>【現場】</b> 分別活動 継続 チェック											
3	総排水量削減 (事務局)	<b>【全部署】</b> ・ トイレ使用の手洗い等の節水 ・ 上水道使用後の閉栓の確認 ・ あらゆる場所の節水徹底 ・ 漏水の防止 ・ バルブの調整	<b>【全部署】</b> 周知徹底  漏水確認・バルブ調整											
4	化学物質使用量削減 (河合)	・ PRTR 法に係る物質は鍵のかかる場所に保管 ・ 定期的に在庫の管理をする。	在庫管理											
5	建設資材のグリーン購入の推進 (野澤・河合)	・ 設計書より再生材など使用可能かチェック ・ 環境への負荷が少ないものを選んで購入 ・ 導入コスト削減に向けて業者と交渉 ・ 情報収集を継続的に行う	周知徹底 購入促進  業者と交渉継続											
6	公共工事の評定点の向上 (野澤, 河合)	<b>【現場】</b> ・ 現場監督員の意識向上を徹底する ・ 施工計画、施工中の問題・クレーム等について、発注者(施主)との打合せを綿密にし、効率的に実施する。	周知徹底											

7	社会貢献 活動の推進 (河合)	・社会貢献活動を年一回以上行う。	年間1回以上 →
---	-----------------------	------------------	-------------

## [6]環境経営目標の達成状況(実績)

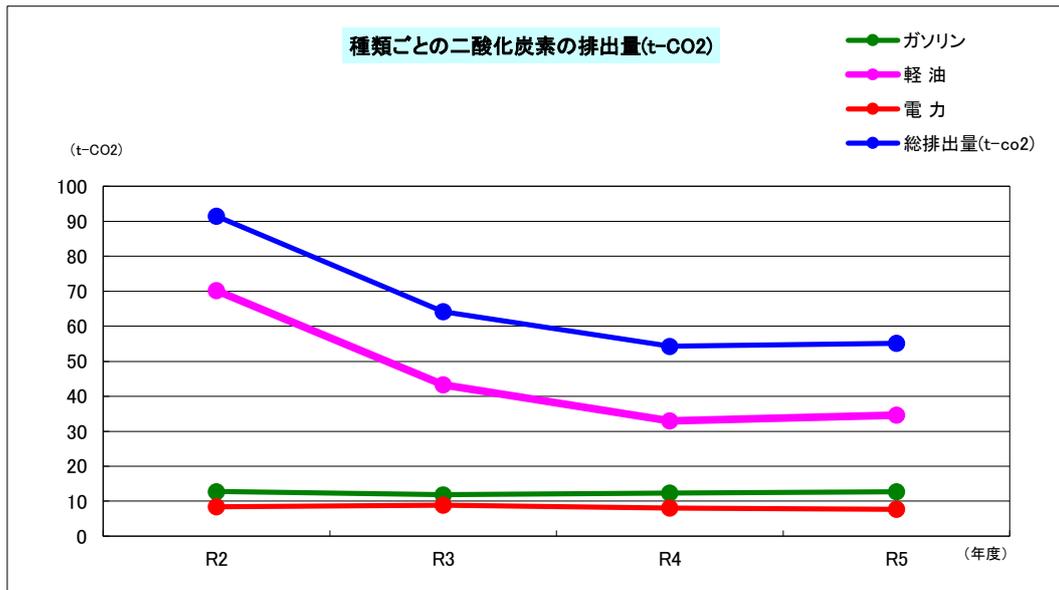
当社における年間の実績は以下の通りである。

テーマ	基準年 R4 年度	R5 年 目標値	R5 年度 実績	達成状況
二酸化炭素排出量 <small>総量(kg-CO<sub>2</sub>/年)</small>	261.0 54,280	258.4 53,737	175.0 55,124	○
廃棄物排出量 <small>再資源化等 (%)</small>	100%	再資源化率 98%以上	99.79%	○
水使用量 <small>総量(m<sup>3</sup>/年)</small>	削減に努める (79)	12m <sup>3</sup> /人 84m <sup>3</sup> 以内	11.8m <sup>3</sup> /人 94.0	○
化学物質使用量	削減に努める	削減に努める	削減に努めた	○
グリーン購入	購入に努める	購入に努める	購入に努めた	○
工事の評定点 (市) <small>平均点(点/年)</small>	市平均点	±1 点以内	±1 点以内	×
社会貢献活動 <small>(1 回/年)</small>	実施	実施	実施	実施

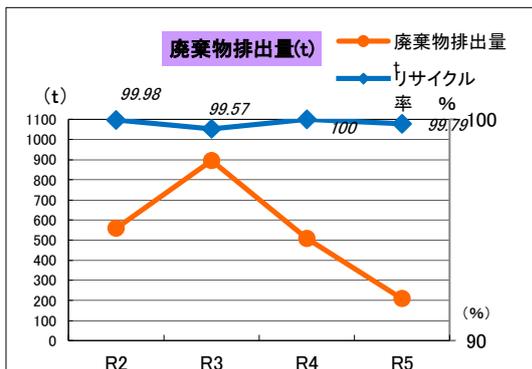
(購入電力の排出係数は中部電力の R4 年度の 0.433kg-CO<sub>2</sub>/kwh)

- 基準年を R4 年度にして、新たに中長期目標を設定して初年度の今回、二酸化炭素排出量は、前年度比 1.6% 増で、達成できなかった。完工高百万円当りの数値を確認すると今年度は工事量も多く昨年より下回った。  
軽油の使用量は工事内容や受注量によるところが大きく、今年度は台風 2 号による豪雨災害関連工事と、市の業務委託により件数・売上とも増えた。  
そのほかガソリンの使用量は 2.9% 増、電力の使用量は、1.4% 減で電力料は 11% 減少した。  
これからも重機や管理を徹底し、各現場に適した規模の機械の導入や運搬経路・回数、工期の短縮などを徹底し、電力料も更に値上がりする事が予想されるため使用量を最小限に抑えたい。
- 廃棄物排出量については、昨年度に比べ総排出量が 58% 減、処分料は 68% 減となった。  
再資源化率も目標を達成できた。今後もできるかぎり分別回収に努め、リサイクル率の向上を図りたい。
- 水使用量については、中長期目標において「削減に努める」としてきたが、ガイドラインにおいて出来る限り数値目標による管理が求められてきていることから、R4 年度において過去 3 年間の平均使用量(従業員数一人当たり使用量換算ベース)から総量数値目標での管理に見直しを行った。今期は、一人増え 8 人になり、目標 96m<sup>3</sup> で範囲内に収まった。今後も漏水には注意する。
- 化学物質に関しては、定期的に倉庫をチェックし、必要な物の SDS を収集し、管理をした。今期は購入が無かった。
- 材料関係では、循環資源(再生砕石等)の購入もあった。。今後も循環資源を利用する努力をし、県内産材料の利用も推進したい。
- 公共工事の評定点では、R5 年度土木は市発注工事が 1 件で 79 点、市平均は 81 点、建築は、1 件で 75 点、市平均は 79.6 点といずれも下回った。工事の評定点は金額によるところもあり難しいが、確実に点数がとれるように努力していきたい。
- 社会貢献活動は、浜松建設業協会の道路清掃と除草に参加したり各現場でも地域貢献活動を実施した。

## 環境経営目標の実績推移

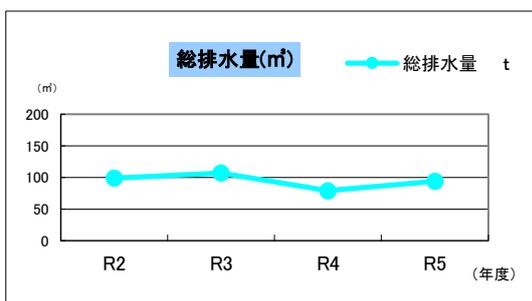


R5年度は、CO2総排出量が前年より1.5%増えたが、最大であったR2年度より40%減となった。CO2排出量は、工事内容により変動があるため、新しく完工高百万円当りで比較すると、前年までより削減できている。

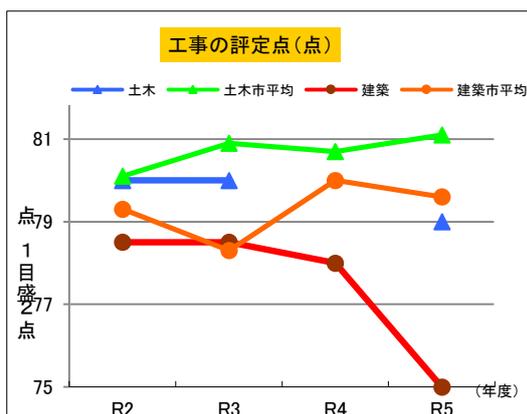


R5年度の廃棄物排出量は、前年より45%減り、リサイクル率は100%で目標を達成できた。

努めていきたい。



R5年度は、前年度より使用量が19%増えた。社員数が1名増え、人員あたりの量で比較すると目標内に収まった。今後も使用量の削減に努めたい。



R5年度は、土木・建築とも市の受注は1件市平均点は、土木が前年度より0.4点上昇しており、土木・建築とも達成できなかった。今後も向上するよう努力していきたい。

## [7]環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

当社では、環境経営目標を達成するために以下のような活動を実施している。  
その達成状況・実施状況を事務局が確認フォローしている。

◎	出来ている
○	改善されてきている
△	現状維持
×	悪化している

①-1 二酸化炭素排出量の削減（電力使用編）	担当部署	結果	評価コメント
<b>【現場】</b> ・不使用機械の電源オフ ・昼休み、休憩時間、退社時の作業場内消灯 ・作業場内の不使用場所の消灯、不要箇所の減灯 <b>【事務所】</b> ・長時間未使用のパソコン・コピー機等の電源オフ ・退社時のパソコン・コピー機等の電源オフ確認 ・節電モードの利用 ・会議室、応接室等の不使用时の消灯 ・長期間使わない物は、コンセントを抜く ・適正な冷暖房温度（室内温度）の見直し <b>【全部署】</b> ・トイレ不使用时、通路照明不要時の消灯 ・その他、不使用場所の消灯、不要箇所の減灯 ・節電対応型機種への変更ならびに導入の検討	環境管理事務局	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ △	不使用时や不要箇所の照明や機械の電源を切る等の節電はできている。  次年度も継続して実施する。
①-2 二酸化炭素排出量の削減（燃料使用編）	担当部署	結果	評価コメント
・無用なアイドリングをしない。空ぶかしをしない。 ・制限速度で走行する。 ・急発進・急加速・急ブレーキを避ける。 ・高速道路・バイパス道路の使用励行 ・タイヤ空気圧の整備・点検 ・不要な荷物は載せない。 ・最短ルートを事前に確認 ・ナビゲーションの導入検討 ・新車購入予定のある場合、環境配慮型の検討	環境管理事務局	○ ◎ ◎ ○ ◎ ◎ ◎ △ △	車輜や作業員室に掲示して推進した。 車輜停車中や、事務所内に来た際など、必ずエンジンを停止するよう指示した。  次年度も継続して実施する。

②廃棄物のリサイクル率の向上	担当部署	結果	評価コメント
・定められた方法に従って可能な限り分別する。 ・種類毎の廃棄物置場に収集、分別 ・各廃棄箱に表示 ・混合物の分別によるリサイクル率を98%以上を推進	環境管理事務局	◎ ◎ ◎ ◎	廃棄物をできるだけ分別保管し排出できた。  次年度も継続実施する。

③総排水量の削減	担当部署	結果	評価コメント
・トイレ使用の手洗い等の節水 ・上水道使用後の閉栓の確認 ・あらゆる場所の節水徹底 ・漏水の防止 ・バルブの調整	環境管理事務局	◎ ◎ ◎ ◎ ○	漏水等なく、節水できた。  次年度も継続する。

④化学物質使用量の削減	担当部署	結果	評価コメント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PRTR法に係る物は鍵のかかる場所に保管する。</li> <li>・年度末に在庫の管理をする。</li> </ul>	現場	○ ○	購入はなかった。 次年度も継続実施する。

⑤建設資材のグリーン購入の推進	担当部署	結果	評価コメント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計書より再生材など使用可能かチェック</li> <li>・環境への負荷が少ないものを選んで購入</li> <li>・導入コスト削減に向けて業者と交渉</li> <li>・情報収集を継続的に行う。</li> </ul>	事務所	◎ ◎ ○ ◎	積極的に購入を進められた。 次年度も購入量を増やしていく。

⑥公共工事の評定点の向上	担当部署	結果	評価コメント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場監督員の意識向上を徹底する。</li> <li>・施工計画、施工中の問題・クレーム等について、発注者(施工主)との打合せを綿密にし、効率的に実施する。</li> </ul>	現場	○ ○	金額の低い工事も点がとれるようにする。 次年度も継続的に実施し結果に結びつける。

⑦社会貢献活動の推進	担当部署	結果	評価コメント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会貢献活動を年1回以上行う。</li> </ul>	現場	△	現場内の地域貢献として実施。 次年度は実施したい。

## [8]環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1) 下記のとおり環境関連法規への違反はありません。

令和 6年 7月 20日

遵守者 環境管理責任者 野澤 豊

### 環境法規制等一覧表

名 称	当社の現状	要 求 事 項	要求に対する対応
騒音規制法 静岡県生活環境の保全等に関する条例	エアコン室外機12台 ①内1台は5.5kw ②残り10台は家庭用の小さいもの 冷凍機1台 0.1kw	設置届出(規制法 該当なし, 条令①該当 3.75kw 以上) 〔第2種区域〕 昼 55DB 朝夕 50DB 夜間 45DB	対応済み (条令該当)
	現場における必要書類の届出 官庁発注工事は仕様書に準ずる	規制基準の順守	随時対応
振動規制法 静岡県生活環境の保全等に関する条例	エアコン室外機12台 ①内1台は5.5kw ②残り11台は家庭用の小さいもの 冷凍機1台 0.1kw	設置届出	該当せず
	現場における必要書類の届出 官庁発注工事は仕様書に準ずる	規制基準の順守	随時対応
廃棄物の処理および清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	①産廃業者等への委託契約 ②産業廃棄物の保管 ③産業廃棄物管理表(マニフェスト)の使用あり	「産業廃棄物運用管理規定」による 毎年6月末までにマニフェストの行政報告の提出	対応済み
浄化槽法	浄化槽 2台あり (7人槽・21人槽)	①定期点検 ②清掃 ③11条検査	①対応済み 3ヶ月毎 ②対応済み R6.5.10 ③対応済み R6.5.27
フロン排出抑制法	(特定製品) 業務用エアコン(2台) 室外機(1台)	事業者の責務 ①簡易点検の実施 ②特定製品を廃棄する場合、フロン類の適正かつ確実な回収・破壊される措置を講じる ③その他特定製品に使用されているフロン類の排出抑制のための措置を講じる	対応済み (業務用エアコンは、交換の際会社が回収し所定の仕方で処分。冷凍機は当面廃棄の予定なし)
自動車リサイクル法	所有自動車(12台)のうち 自動車のエアコン10台	①自動車所有者は使用済自動車を引取業者へ引き渡さなければならない、自動車フロン券の使用 ②リサイクル料金の支払	対応済み (自動車は原則下取りとするため、廃棄せず)
高圧ガス保安法	プロパンガス	転倒防止装置	対応済み
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	(特定家庭用機器) エアコン9台、洗濯機1台、冷蔵庫1台	事業者の責務 ①特定家庭用機器をなるべく長期間使用し、廃棄物となることを抑制する ②廃棄物として排出する場合は、運搬する者等に適切に引き渡し、料金の支払いに応じる	対応済み
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)	市役所に書面を提出	工事毎に対応	対応済み
グリーン購入法	購買品の一部で実施	事業者の責務 できる限り環境物品等を選択するよう努める	対応済み
化学物質管理促進法(PRTR法)	少量ながら該当有り	年間使用量 1,000Kg以上は届出対象	該当せず
【その他の要求事項】 公共工事仕様書	全てクリア	できる限り良い点数を取る	対応済み
大気汚染防止法	解体工事(件数は極わずか)	石綿(アスベスト)飛散防止対策の実施	随時対応

(2) 関係機関等からの指摘や訴訟等も過去3年間ありません。

[9]代表者による全体評価と見直しの結果

報告	作成
野澤	山田

作成 令和 7年 4月 10日

1 ・ 見 直 し 関 連 情 報	項 目	確認 : (必要に応じて評価・コメント記載)
	1	エコアクション21文書
2	環境経営目標及び目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> CO <sub>2</sub> 排出量は未達成となっているが内容としては問題なしと考える
3	環境経営計画及び取り組み実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続して取り組みます
4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/> 記録に記載いたしました。
5	外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/> 特に問題ありませんでした。
6	問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 特に問題ありませんでした。
7	取引先、業界、関係行政機関、その他の外部動向	<input checked="" type="checkbox"/>
8	その他( )	<input type="checkbox"/>

2 ・ 代 表 者 に よ る 全 体 評 価 ・ 見 直 し 指 示	<p>環境経営方針基本理念の中で、地域貢献、循環型社会の実現に向けた取り組みの柱として二酸化炭素排出量の削減目標と共に、行動指針の重点的なテーマとして、7項目を掲げ取り組んできました。</p> <p>当社における二酸化炭素排出量については、軽油(62.9%)やガソリン(23.1%)の燃料消費(86%)や電力使用量(14%)が主となっている。</p> <p>また二酸化炭素排出量の主要部分を占める燃料使用量については、各年で建設業務における受注量や工種の変動、各現場の施工条件等により重機や車両の稼働内容により大きく変動することになることから、二酸化炭素排出量目標値と合わせ、完工高百万円当りに対する評価の、両面での取り組みを行う。</p> <p>また他の重点的な取り組みテーマである廃棄物の再資源化や、水使用量の削減、グリーン製品購入への取り組みも、より具体的な把握に努めていくなかで、環境負荷をより軽減していくよう今後も継続し取り組みを行っていく。</p> <p>今後の継続的な取り組みにおいては、各活動の推進と環境への負荷軽減に対する、より具体的な要因の分析・把握(各現場における燃料消費量の把握と評価への取り組み等)に努めていくよう環境監理責任者に指示した。</p> <p style="text-align: center;">令和7年4月10日 株式会社 井口組 代表取締役 池田 義明</p>			
	見直し項目	変更の 必要性	「有」の場合の指示事項等	
	1	環境経営方針	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	引き続き活動を継続していく。
	2	環境経営目標	<input checked="" type="radio"/> 有・無	CO <sub>2</sub> の目標値の設定状況の検証、及び評価方法を百万円単位制にする。
	3	環境経営計画	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	計画の取組は適切に行われている。継続していく。
	4	実施体制	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	現在の体制で継続していく。
	5	その他のシステム要素	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	エコアクションはシステムとして機能している。
6	その他(外部への対応)	環境コミュニケーション 地域環境活動	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	現在の体制で継続していく。